オーディオ実験室収載

EMT981 再生系の再構成(12)
－ハイドンを聴く(3)－

１．はじめに

前報(3)において EMT981 から TruPhase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

２．EMT981 の試聴方法

今回、Autograph MINI での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(＊)→TruPhase→.300B

＊：GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンのチェロ協奏曲です。

King International／SIMAX　PSC1351
ハイドン　チェロ協奏曲 1 番ハ長調
モーツアルト　Sinfinia Concertante E flat Major
クレメンス・ハーゲン（チェロ）
Jan Bjorenger（Violin）
Lars Anders Tomter（Viola）
ERATO　WPCS-13320
ハイドン　チェロ協奏曲 1 番ハ長調
その他バロック協奏曲集
エドガー・モロー（チェロ）
リッカード・ミナージ指揮イル・ポ・モドーロ

３．EMT981 の試聴結果

上記 2 盤とも、演奏会に行って求めてきたものです。

クレメンス・ハーゲン盤のハイドンのチェロ協奏曲 1 番は、2016 年の録音で新しく、明晰ですっきりとした音で切れの良い演奏です。モーツアルトの協奏曲の方も、ヴァイオリンとヴィオラ双方とも艶のある切れ味の良い演奏です。

エドガー・モロー盤のハイドンのチェロ協奏曲 1 番は、2015 年発売で、録音が新しく、明晰な音で現代的でフレッシュな演奏が楽しめます。他にバロック時代のチェロ協奏曲が収録されていますが、これらの演奏もハイドンと同様の印象です。

４．まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤とも録音が新しく、明晰ですっきりとした音が楽しめます。

以上